

定禅寺通エリア
まちづくりビジョン
2030

定禅寺通エリアまちづくり基本構想

2022.03

定禅寺通活性化検討会



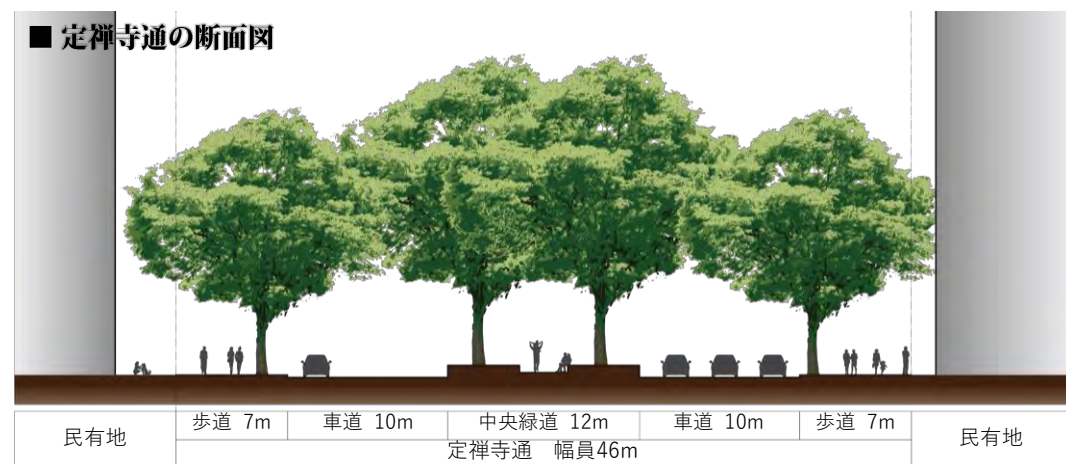
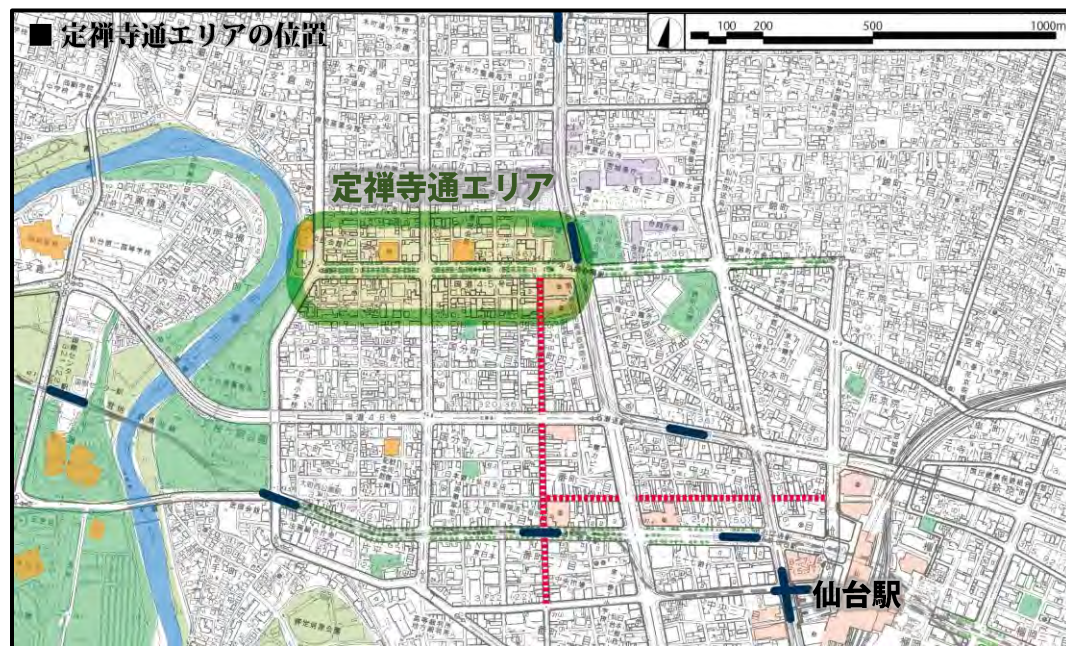
はじめに

定禅寺通は、仙台都心の北側に位置する、西公園通から駅前通を結び、ケヤキやイチョウ並木が続く全長約1,400mの通りです。特に東二番丁通より西は、4列のケヤキ並木が美しく、主要な文化交流施設があり、また定禅寺ストリートジャズフェスティバルやSENDAI光のページェントをはじめとする様々なイベントの舞台として、市民や多くの来訪者にも愛される杜の都のシンボルロードです。

定禅寺通活性化検討会は、そのような杜の都・仙台を象徴する定禅寺通エリアの魅力を向上させ、次世代につないでいくため、官民連携のもとにエリア価値向上につながるまちづくりを推進することを目的とし、定禅寺通エリア内の各商店会や町内会の代表の方、まちづくり団体、定禅寺通に面する土地建物オーナーの方、また本会の趣旨に賛同していただける個人や法人の方々を会員に2018年10月に発足しました。

定禅寺通活性化検討会では、定禅寺通エリアの将来像、活性化や魅力向上に資する取組み、道路空間再構成、歩行空間の利活用、エリアマネジメントなどについて検討を進めてきた他、社会実験による検証や市民との対話なども繰り返し行ってきました。

「定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030」は、これまでの検討を踏まえ、定禅寺通エリアにおけるまちづくりの理念・目標やこれらを実現するための戦略等を共有し、宣言するために基本構想としてとりまとめたものです。



まちづくりの目的

定禅寺通エリアが、
「杜の都」のシンボルであり続け、
将来にわたって人々を惹きつけ、
仙台都心の回遊を促し、
仙台の都市ブランドの向上に貢献する。

定禅寺通エリア まちづくりビジョン2030とは

- 定禅寺通エリアにおける関係者が将来のまちづくりの方向性を共有し、その実現を目指し取り組んでいくための指針
- 定禅寺通エリアのまちづくりに向けた、定禅寺通活性化検討会での検討成果のとりまとめ
- 今後も、まちの変化や社会情勢、技術進展などに照らし合わせ、関係者がまちづくりの方向性を共有しながら適宜更新・変更させていく

目次

第1章 まちの、変わらない想い

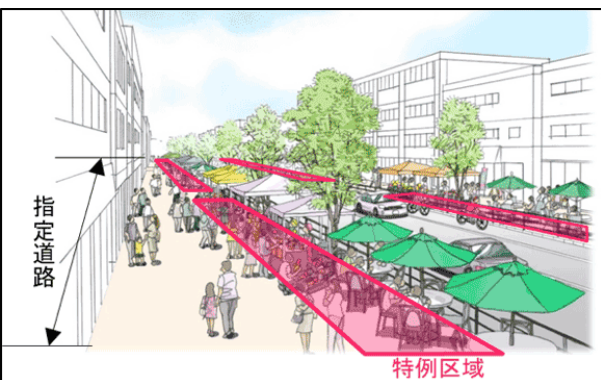
- 05 定禅寺通エリアへの期待
- 06 定禅寺通エリアの課題
- 07 定禅寺通エリアをアップグレードしよう
- 11 未来へと続く私たちの想い

第2章 2030年までには私たちが実現したいこと

- 18 定禅寺通エリアの特徴を生かしたまちづくり
- 19 2030年までには実現したい空間イメージ
- 29 2030年までには実現したい道路空間の考え方
- 30 4つのエリアブランディング戦略
- 31 戦略に基づくプロジェクトメニュー
- 35 エリアマネジメント

第 1 章

まちの、変わらない想い



定禅寺通エリアへの期待の高まり

市民主体によるケヤキ並木を生かしたまちづくりの成熟

- SENDAI光のページェントや定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど市民発イベントの定着と全国区化
- 多彩なイベントの開催で生まれる交流人口

様々な公共施設・文化施設の再編が進行

- 仙台市役所本庁舎の建替
- 勾当台公園の再整備
- 西公園の再整備
- 県民会館の移転予定
- 市民会館の老朽化

近隣エリアで居住人口が増加

- 2000年から2015年までの15年で子育て世代を中心に、居住人口が約1.5倍に増加

せんだい都心再構築プロジェクトなど都心再生への機運

- 老朽建築物の建替え促進や高機能オフィスに着目した容積率の緩和
- 都市再生緊急整備地域の拡大などによる民間投資の喚起

居心地がよく歩きたくなる街への期待

- 世界や国のまちづくり動向を踏まえたウォークシフトへの動き
- 都市再生整備計画（仙台都心地区）におけるまちなかウォークブル区域の指定
- 歩行者利便増進道路など新たな制度・施策の全国的な普及
- 都心部における自動車交通量の減少（1994年から2017年で19.3%減少）

写真上：定禅寺ストリートジャズフェスティバルの様子
写真中：新本庁舎のイメージパース（出典：仙台市）
写真下：歩行者利便増進道路の空間活用イメージ
（出典：国土交通省HP）

都心におけるコア(核)としての求心力の弱さ

消費や滞在を促す機会や施設が乏しい

- ライフスタイルや価値観の変化に伴い来街機会が減少
- 都心部の他の地域に比べて小売店舗・飲食店の立地が少ない
- エリアのポテンシャルを観光に活かし切れてない
- 沿道から後背地にかけて駐車場用地が多い

建物の老朽化が進んでいる

- 商業系建物の約56%が築40年以上
- 住居系建物の約51%が築40年以上

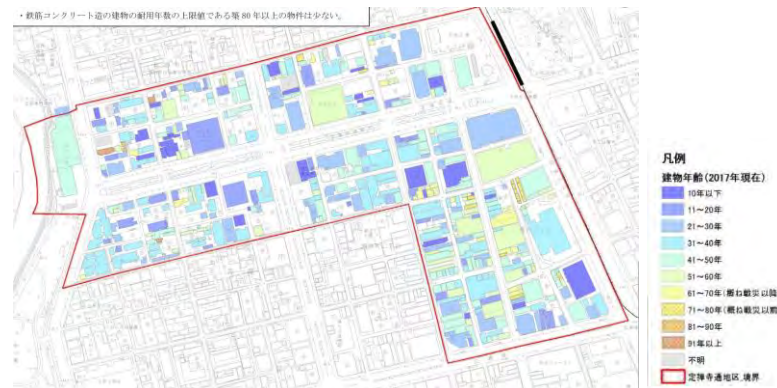
暮らし機能の不足

- 近隣エリアでは居住人口が増えているが、最寄品・生活必需品を
買えるお店が不足

歩行者通行量が少ない

- 仙台都心部の他のエリアに比べて相対的に歩行者通行量が少ない
- 特に、仙台駅周辺に比べると2.5倍以上の差がある

■ 建物建築時期



■ 定禅寺通平均通行量に対する通行量



定禅寺通エリアをアップグレードしよう

定禅寺通エリアは
これまで積み重ねてきたまちづくりの「歴史」により
市民にひらかれた文化交流・市民活動の拠点として
成長してきました。



定禅寺通エリアの系譜

仙台開幕から続く歴史

- 1945(S 20) ●仙台空襲で市中心部全焼。被災戸数約12,000戸、死者約1,400人。
- 1926(T 15) ●市電開通（S1まで）
- 1891(M 24) ●東北本線全線開通
- 1889(M 22) ●市制施行、仙台市誕生（人口86,352人）
- 1871(M 4) ●廃藩置県により、仙台藩が仙台県となる
- 1600(K 5) ●伊達政宗、千代を仙台と改め居城とする
- 1504~1520 ●定禅寺開山

戦災復興によるケヤキ並木の誕生・発展

- 1988(S 63) ●141ビル完成
- 1987(S 62) ●地下鉄南北線開業（勾当台公園駅入口7箇所）
- 1986(S 61) ●仙台市中心市街地街路整備基本計画策定「緑地とけやきのプロムナード」
- 1985(S 60) ●仙台市都市景観基本計画策定
- 1980(S 55) ●宮城県沖地震（M7.4）発生。仙台で震度5死者13名
- 1978(S 53) ●彫刻のあるまちづくり事業開始
- 1977(S 52) ●ケヤキ並木を保存樹林に指定
- 1975(S 50) ●市民会館完成
- 1973(S 48) ●電線地中化工事完成
- 1967(S 42) ●県民会館完成
- 1964(S 39) ●定禅寺通緑地帯と歩道部分にけやき植樹
- 1958(S 33) ●「定禅寺通櫓丁線・定禅寺通緑地」都市計画決定。幅46m中央に緑地帯が整備される。
- 1946(S 21) ●戦災復興土地区画整理事業の決定
- 仙台七夕10年ぶりに復活。

今につながる文化交流・市民活動の拠点に成長

- 2015(H 27) ●地下鉄東西線開業
- 2011(H 23) ●死者（市民）1,002名、全壊建物30,034棟。東日本大震災（M9.0）発生。宮城野区で震度6強。
- 2003(H 15) ●「定禅寺通地区計画」決定
- 2002(H 14) ●杜の都の景観基本計画策定
- 2001(H 13) ●「定禅寺通地区計画」決定
- 1999(H 11) ●定禅寺通街づくり総合プラン策定
- 1998(H 10) ●モデル地区景観形成地区指定
- 1997(H 9) ●定禅寺通シンボルロード整備計画策定
- 1996(H 8) ●勾当台公園、地下駐車場完成
- 1993(H 5) ●仙台市・政令指定都市としてスタート
- 1991(H 3) ●仙台ハーフマラソン大会開催
- 1990(H 2) ●せんだいジャズフェスティバル開催
- 1989(H 1) ●「定禅寺通り地区まちづくり宣言」発表
- 定禅寺通り地区まちづくり協議会
- ハロー定禅寺村解散
- みちのくYOSAKOIまつり開催
- ハロー定禅寺村再結成（中央緑道にてオープンカフェ社会実験実施）
- 定禅寺通活用方策検討委員会設立

更なる挑戦

- 2022(R 4) ●定禅寺通大規模社会実験実施
- 2021(R 3) ●一部車線制限を伴う社会実験実施
- 2019(R 2) ●定禅寺通活性化検討会設立
- 2018(R 1) ●定禅寺通活性化検討会設立

ハード整備・計画等に関する事項

ソフト・活動等に関する事項

参考：定禅寺通活性化検討会の主な活動

2018年度【共有・論点整理】



設立総会(第1回全体会)

- ・正会員36名参加の下、10/29に設立総会を開催。規約の承認と役員を選任が行われた。【写真】
- ・引き続き行われた第1回全体会では、仙台市が2017年度実施した基礎的調査の結果と、今後の進め方について報告があった。

キックオフミーティングとワーキンググループ

- ・11/18、会員59名が参加したキックオフミーティングでは、定禅寺通エリアへの思いやビジョン、アクションについて意見交換した。【写真】
- ・これを皮切りに、専門家を講師に招いたワーキンググループを年度内4回開催(11/19,12/5,1/23,2/26)。



幹事会

- ・会長・副会長及び幹事の計16名で構成される幹事会の第1回を1/16に開催。【写真】
- ・幹事会では、全体会に付議する重要事項をはじめ、検討会の運営や社会実験、基本構想などについて協議。書面開催含め2021年度までに計30回開催。



2019年度【実践・検証を繰返しながら具体的な取組みを検討】



テーマ型ワーキンググループ

- ・専門家や行政関係者等との意見交換を行いながら、各テーマの論点を整理し、社会実験や基本構想案に反映するテーマ型ワーキンググループがスタート。【写真：道路空間再構成TWG第1回ミーティング(6/1)】
- ・以降、2021年度までに7つのテーマで全10回開催。

プロジェクト型ワーキンググループ

- ・具体的なアクションアイデアを持つ会員グループが、試行的な実践を通じて、その課題や成果を基本構想の検討に反映するプロジェクト型ワーキンググループ。まずは2グループから始動。【写真：LIVING STREET PROJECT】
- ・最終的に6グループが結成された。



パブリックミーティング(市民参加型シンポジウム)

- ・検討会での検討内容やその状況について、広く市民に公開し、意見を収集する機会として「定禅寺通パブリックミーティング」を年度内2回開催。【写真：パブリックミーティングvol.1～定禅寺通エリアで仕掛ける(6/9)】
- ・市民参加型シンポジウムは、2021年度までに計4回開催。



2020年度【実践・検証を繰返しなが具体的な取組みを検討】



基本構想検討チーム

- まちづくり基本構想の策定に向けて、若手幹事やプロジェクト型ワーキンググループの代表がメンバーとなる「基本構想検討チーム」を2019年度に組成。メンバー同士の議論にとどまらず、専門家や実践者を招いての意見交換なども実施。【写真：第7回(7/14)】
- オンライン併用しながら、2021年度までに計20回開催。

プロジェクト型 ワーキンググループ

- 2020年度に3つのグループが加わり、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、それぞれ試行的な実践を継続。【写真：イナトラほろ酔い縁日(7/31-8/7)】



定禅寺通から新たな潮流を

JOZENJI STREET STREAM

定禅寺通活性化検討会

公式WEBサイトの公開

- プロジェクト型ワーキンググループ「定禅寺通エリアブランド・プロジェクト」の一環で公式WEBサイトを12月に公開。



2021年度【合意形成・基本構想の策定】

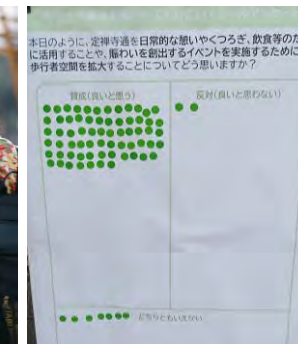


大規模社会実験の開催

- 車線削減による交通への影響と道路空間の利活用の日常化に向けた効果や課題等を調査するため、定禅寺通の車線を一部削減し、拡張した歩行者空間を利活用する大規模社会実験を仙台市との共催により8/20～9/7に実施。【写真：交通規制案内板】

大規模社会実験での 若者の活躍と市民の賛同

- 大規模社会実験では、学生を中心に多くの若者が参画・協力した。【写真左：来訪者アンケートを依頼する若者】
- 「日常的な憩いや賑わいの創出などのために歩行者空間の拡大」に対して、来訪者の8割が賛成。【写真右：大規模社会実験期間中に実施したシールアンケート】



基本構想を全体会で承認

- 第7回全体会（3/16）にて「定禅寺通エリアまちづくり基本構想」の策定を承認。
- エリアマネジメント推進体制における合意形成組織及び実行組織となる「定禅寺通街づくり協議会」及び「(仮称)一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント」に対する基本構想の継承を承認。【写真：第7回全体会での審議】

未来へと続く私たちの想い

まちづくりの理念

世界に誇るケヤキ並木と共に
「ここにしかない」
プライスレスな時間と体験を。

このエリアならではの魅力があふれる定禅寺通※で、
ケヤキ並木をはじめとする緑を大切にしたい人
豊かな都心暮らしを満喫したい人
充実したワークライフを過ごしたい人
新しいことにチャレンジしたい人
仙台・東北の魅力を味わいたい人
文化・芸術を楽しみたい人
自分時間を楽しみたい人
が出逢い、文化を創造し、価値を高め合う。



デートに
行こう

友達と
一緒に
遊びに
行こう

新しい
出会いが
ありそう

ちょっと
行って
みよう

新しい
思い出が
出来た

この街が
もっと好きに
なった

大切な人と
過ごしたい

「まちづくりの理念」のもと私たちが目指す街の姿

歩きたくなる、巡りたくなることで 「出逢」が広がる街

安全で快適に、楽しく回遊・滞留できる環境をつくり、多様なヒト・コト・情報などに出逢える街を目指します。

人々が行き交い感性を触発し合うことで 「文化」を創造し続ける街

常に人々が行き交い、交流が広がる状況をつくり、新しい文化やアクティビティが生まれる街を目指します。

ケヤキ並木を誇りにし魅力を広げることで 「価値」を高め合う街

ケヤキ並木の魅力を様々な活動に活かし、エリアの価値をさらに高めつつケヤキ並木の魅力を後世に継承する街を目指します。



※定禅寺通エリアならではの魅力とは

- 日本一のケヤキ並木と緑道があること
- 官公庁やオフィスがあり多くのワーカーがいること
- 西公園や勾当台公園など魅力的な公園につながっていること
- 緑道を中心にクリエイティブな活動があること
- 穏やかな都心居住が可能であること
- 文化活動・市民活動の拠点施設が集積していること
- おもてなし溢れる個店が多くあること
- 東北最大の歓楽街・国分町につながっていること

「目指す街の姿」を実現するためのまちづくりの空間像

目指す街の姿を実現するには、

「人々が安全、快適に通行・滞在できる空間」

「豊かな時間を過ごすことができ、多様なアクティビティが生まれる空間」

が不可欠であり、そのためには、

『ひととくるま(自動車や自転車など)との交錯の危険が無い環境整備』

『利活用しやすく過ごしやすいゆとりある広い空間と必要な設備の整った環境整備』
が必要です。

また、

「環境志向に伴う車依存社会からの脱却」

「高齢化や健康志向に伴う安全で快適な歩行環境のニーズの高まり」

など、くるま中心からひと中心の都市空間への転換を求める社会的要請を踏まえ、

幅員46m長さ700mの都市空間を有する定禅寺通においても

世界に誇るケヤキ並木や中央緑道など唯一無二の強み・個性を最大限に活用し

ひととくるまの関係性を再考すること

が必要です。

このような考え方から、定禅寺通エリアでは

ひと中心の空間づくり

を進めます。

目指す街の姿を実現するための空間像

【必要な空間】

安全・快適な通行・滞在
豊かな時間・多様な活動



【必要な整備】

交錯の危険の無い環境
広さと設備の整った環境



【社会的要請】

都市空間における
人と車の関係性の見直し



【強み・個性】

世界に誇るケヤキ並木
中央緑道



定禅寺通エリアを
ひと中心の空間へ

「ひと中心の空間づくり」のステップ

空間利活用の熟度などに応じて、**段階的に道路空間の再構成**を図っていきます。

現在、定禅寺通沿道には多くの権利者・事業者がおり、
また、歩行者のみならず、公共交通や商用車を含む多くの自動車や自転車も通行しています。

現状、自動車利用を前提とした社会生活が浸透していることや、
道路空間を日常的に利活用することに不慣れであることなどの課題もあり、
道路空間再構成を進めるにおいては、これら多様な関係者の理解のもと
効果検証や制度活用なども重ねながら、段階的・計画的に道路空間の再構成を図っていきます。

現在～

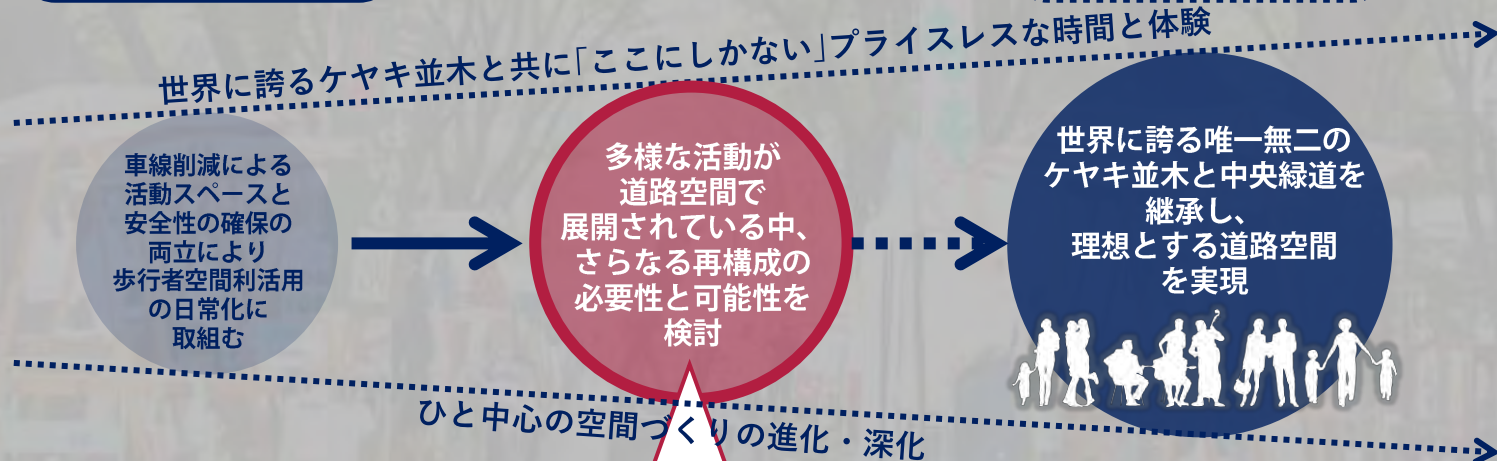
2030年～

20XX年～

空間利活用 **醸成期**

空間利活用 **常態期**

空間利活用 **成熟期**



まずは、「定禅寺通り地区街づくり宣言」発表から40年となる2030年を目標年度に設定し、「空間利活用常態期」に向けた取組みを進めます。

参考：道路空間再構成に関する検討の経緯

1) 空間利活用の視点を中心とした議論の積み重ね

定禅寺通活性化検討会では、道路空間の再構成について、歩行者と自転車及び自動車の関係性や自動車交通への影響なども考慮しながら、空間利活用の視点での議論を中心として、専門家を交えた会員同士の意見交換等を重ねてきました。検討会の幹事会やテーマ型ワーキンググループ、市民参加型シンポジウムにおいては、仙台市が実施した「道路空間再構成の3つのパターン」における交通シミュレーションの結果も共有した上で議論を行い、各パターンについて様々な意見が出されました。

「道路空間再構成の3つのパターン」と各パターンに対する意見など				
	片側1車線削減	片側2車線削減	半断面車線廃止+片側1車線化	3つのパターン以外の意見
道路空間再構成の模式図				フルモール化/公園化 (車両全面通行禁止) トランジットモール化 (公共交通等のみ通行可能) 現状維持 (片側3車線)
パターンに対する評価の傾向	・「現実的」、「すぐにできそう」との意見が多い一方で、「今と変わらない」との意見も多数	・「歩道の広がり・活用への期待」がある一方で、「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も	・「広い空間・活用への期待」が多いが、「不公平感・バランスの悪さ」や「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も多数	
その他の主な意見	・ 自転車走行空間の設置により歩行者の安全性が向上する一方で、自転車と停車車両の交錯の危険性を懸念 ・ 利活用のためのインフラ設備（上下水道、電気、トイレなど）の整備も必要 ・ 中央緑道の使いやすさや歩きやすさの向上（土舗装の改良など） ・ ハード（空間整備）よりもソフト（コンテンツや規制緩和など）が重要 ・ ケヤキ並木の保全・継承のあり方の検討が必要			

2) “片側1車線削減を基本”とする大規模社会実験の実施を決定

交通シミュレーションの結果（“片側2車線削減”と“半断面車線廃止+片側1車線化”の場合は大きな混雑悪化が想定）及び関係機関との協議を踏まえ、第5回全体会（2021年1月16日開催）において、「“片側1車線削減”を基本とする形以外の道路空間再構成の実現には様々な課題があり、社会的環境の変化を考慮しながら各種施策を積極的に行ったとしても、解決にはかなりの時間を要する」ことから、**段階的に取組んでいくことの必要性を確認し、「短期的（概ね10年）に実現見込みがある“片側1車線削減”を基本**とした車線規制による大規模社会実験の実施を議決しました。

3) 大規模社会実験(2021年8月20日～9月7日実施)における調査結果

大規模社会実験では、仙台市が「片側1車線削減」を基本とした車線規制」と「車道への自転車走行空間の整備」等を実施し、それによって生まれる公共空間の利活用や空間演出などを定禅寺通活性化検討会が担いました。市が実施した交通への影響や空間利活用の取組みなどの効果に関する調査では、「**車線規制による自動車交通への影響（混雑等）は、ほとんど生じなかった**」、「**（空間利活用により）滞留の場所やコンテンツを提供することで人々の多様な活動が誘発された**」などの結果とともに、多くの来訪者や沿道関係者から「歩行者空間の拡大への賛同」や「歩道利活用に対する肯定的な意見」も得られるなど、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、出店コンテンツの一部を中止したものの、今後の空間利活用に向けた貴重な成果がありました。

交通量等調査結果のポイント

① 自動車

- ・車線規制による自動車交通への影響（混雑等）は、ほとんど生じなかった。
- ・周辺道路を通行する車両の所要時間は、全体的には大きな増加は見られなかった。

② 歩行者

- ・社会実験前と比べて、歩行者の通行量に大きな変化は見られなかったが、**出店イベントが行われた日は中央緑道の歩行者通行量が増加した。**

③ 自転車

- ・車道を走行していた自転車に他の車両との錯綜はほとんど見られなかった。
- ・歩道上における錯綜は、自転車利用者のルールやマナーの違反によるものが多かった。

④ 駐停車スペース利用状況

- ・社会実験前と比べて、定禅寺通において駐停車車両が減少した。また、社会実験期間中は、多くの車両が設置した停車スペース内を利用していた。

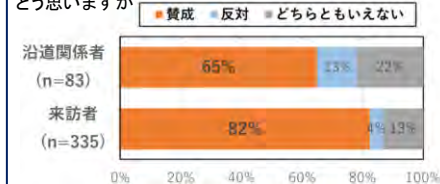
利活用効果測定調査結果のポイント

① 行動調査

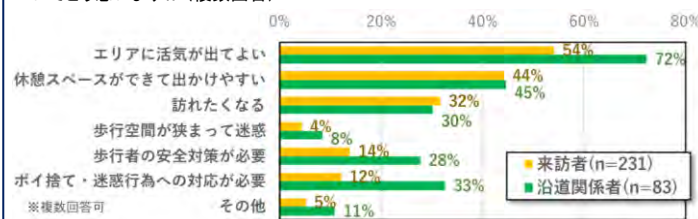
- ・滞留の場所やコンテンツを提供することで、滞在者数が2倍強に増加するなど人々の多様な活動が誘発され、設えによって活動の内容も変化した。

② アンケート調査

設問：定禅寺通を日常的な憩いやくつろぎ、飲食等のために活用することや、賑わいを創出するイベントを実施するために、歩行者空間を拡大することについてどう思いますか



設問：歩道が本日のように（テーブルやベンチ、キッチンカーの設置等）使われることについてどう思いますか（複数回答）



③ 市民意見

- ・コールセンターなどに寄せられた市民からの意見として、コロナ禍での実施に関するもの他、「駐停車車両の存在で自転車が走れる空間になっていない」、「自転車のルールが守られていない」など、「自転車」「自動車・車線規制」に関するものが多かった。

4) 実現可能性を考慮した段階的な道路空間再構成

ひと中心の空間づくりとして、「フルモール」や「トランジットモール」、「片側2車線削減」などを目指すことも考えられます。しかしながら、それらの整備形態は、現状では自動車交通への影響が大きく、多様な関係者の理解を得るためには相当な時間を要することが想定されます。一方で、これまでの社会実験の取組みなどを通じて、歩行者の安全性の向上と空間利活用の両立へのニーズが高まっています。定禅寺通活性化検討会としては、**大規模社会実験の結果を生かし、まちづくりの動きを加速するためにも、2030年を当面の目標年次に定め、早期に実現可能な道路空間の再構成により、歩行者空間の拡幅を進めることを優先していきます。**

第 2 章

2030年までには実現したいこと

定禅寺通エリアの特徴を生かしたまちづくり

定禅寺通エリアは、個性ある地域やゾーンで構成される多様性あるエリアであり、その個性を生かしたまちづくりに取り組みます。

定禅寺通エリアは、都心にありながら緑溢れる希少なエリアであり、ケヤキ並木の成長とともに市民活動・市民協働が育まれてきました。こうした個性をさらに高めていくために、ケヤキ並木から連想される「サスティナブル」や「エコロジー」などの社会的テーマを意識したまちづくりを進めます。

文化交流・市民活動の拠点となる定禅寺通エリアにおいて、クリエイティブな活動がさらに展開されていくために、エリア両端の「つなぎ横丁周辺ゾーン」と「西公園SL広場周辺ゾーン」を重点ゾーンと位置づけ、新たな挑戦が生まれるパブリックスペースとして積極的に活用していきます。【#クリエイティブ #チャレンジしたい人】

本庁舎建替事業
(供用開始：2028年度予定)

仙台市役所

宮城県庁

勾当台公園再整備事業
(供用開始：2031年度予定)

勾当台公園

つなぎ横丁
周辺ゾーン

一番町四丁目商店街～
市民広場～本庁舎低層部
とのつながり
を強化

県民会館移転予定

県民会館

国分町通

晩翠通

せんだい
メディアテーク

木町通

市民会館

広瀬川

西公園SL広場
周辺ゾーン

西公園や広瀬川
とのつながり
を強化

豊かに暮らせる
西エリア

24時間楽しめる
東エリア

晩翠通の西側は、西公園や広瀬川とともに落ち着いた雰囲気、個性的なお店が集まっています。近年は周辺も含めマンション建設が進み、子育て世帯が増加しています。こうした特徴を生かして「豊かに暮らせる西エリア」を意識したまちづくりを進めます。【#コミュニティ #子育て世帯】

晩翠通の東側は、東北最大の歓楽街・国分町があり、3万人を超える従業者が毎日通う官庁・オフィス街を抱えています。こうした多くの交流人口が集まる特徴を生かして「24時間楽しめる東エリア」を意識したまちづくりを進めます。【#ナイトタイム #ワーカー】

一番町四丁目商店街

仙台三越

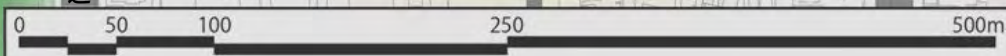
東一番丁通

稲荷小路

虎屋横丁

西公園

西公園通



2030年までには実現したい空間イメージ①

「豊かに暮らせる西エリア」 休日昼間の定禅寺通



「豊かに暮らせる西エリア」 休日昼間の定禅寺通

< 解説編 >

- 定禅寺通が日常的なコミュニティの場になっています
- 近隣の方を中心に子連れの方や年配の方なども訪れます
- 休日には個性的なお店が出店するマルシェなどが開催されています
- 西公園へのつながりが意識され、木でできたベンチや遊具などが置かれています

テーブルやベンチとしても
利用できるツリーサークル

様々な出店やパフォーマンス等の場となる
キューブ（木製の路上貸し出し空間）

イベント時には木製の遊具等
を置き多様な活動を誘発

休日には軒先を貸し出し、
いつもと違ったサービスを提供

イスやテーブルを置いて憩いの空間づくり

2030年までには実現したい空間イメージ②

「24時間楽しめる東エリア」 平日夕暮の定禅寺通



「24時間楽しめる東エリア」 平日夕暮の定禅寺通

< 解説編 >

- 沿道不動産オーナーやテナントを中心として空間が活用されています
- 公共空間活用等の収益をまちづくりに還元する仕組みづくりができています
- 仕事帰りの待ち合わせや“0次会”的に利用する空間になっています
- 国分町とのつながりを意識したおしゃれなファニチャーが置かれています

上層階テナント等やチャレンジショップ等が
出店可能な路上の常設コンテナ

快適に歩き回るための
十分な歩行空間

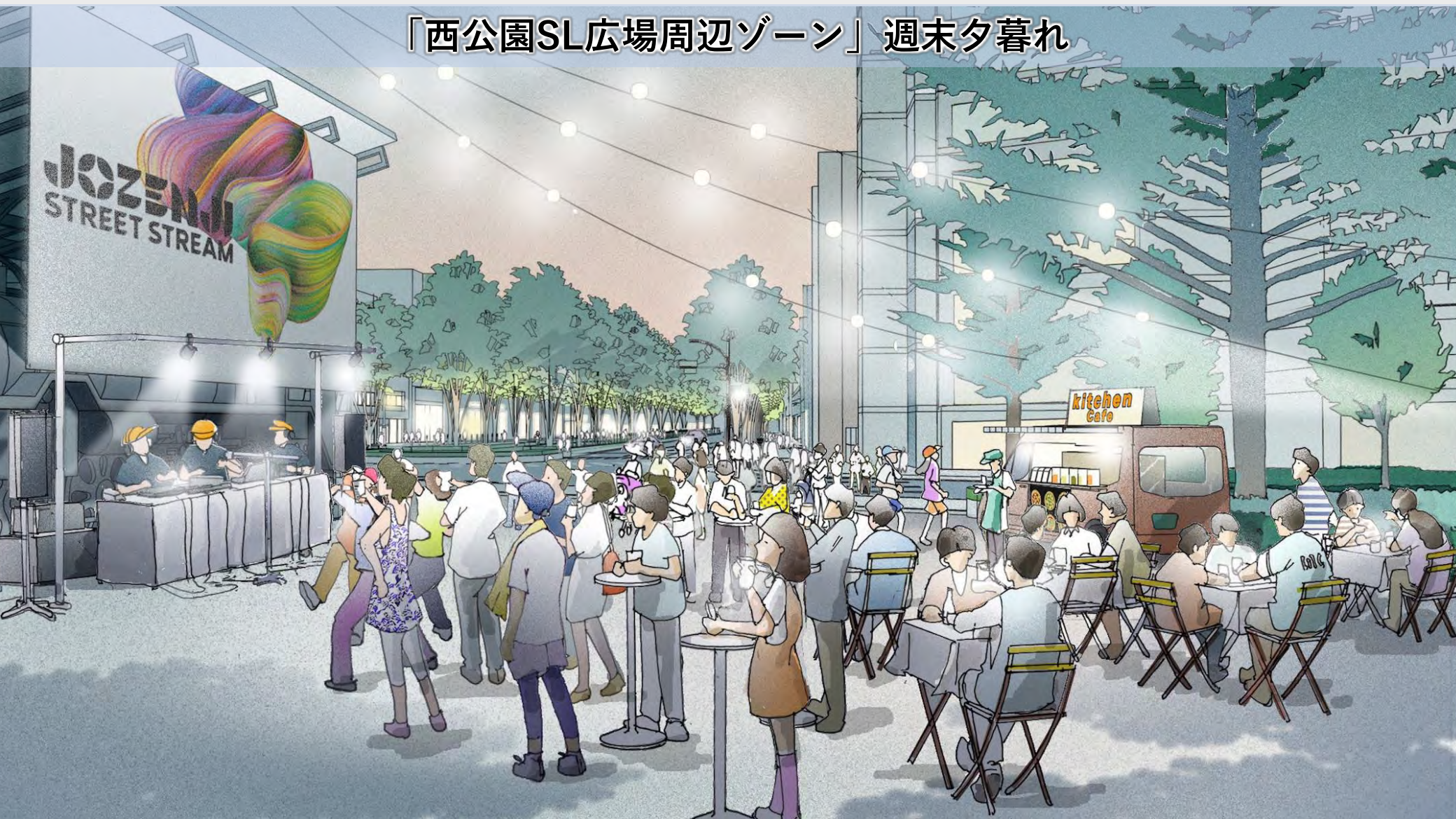
街のイメージを一体的にする
連続したオーニングや色彩

街に開かれた
ビュースポット

天気や季節に左右されずケヤキ並木を楽しめる
歩道部分ににじみ出たカフェ等のテラス席

2030年までには実現したい空間イメージ③

「西公園SL広場周辺ゾーン」週末夕暮れ



「西公園SL広場周辺ゾーン」週末夕暮れ

<解説編>

- 定禅寺通からのアイストップとなる場所であることを意識しながら、新しいことにチャレンジしたい人をはじめ、様々な人々がクリエイティブな活動を展開する空間となっています
- おしゃれでこだわりのある屋外コンテンツが開催され、西公園を目的地として多くの人々が訪れます
- 日常的に西公園を利用する人も非日常の体験を楽しむ場となっています

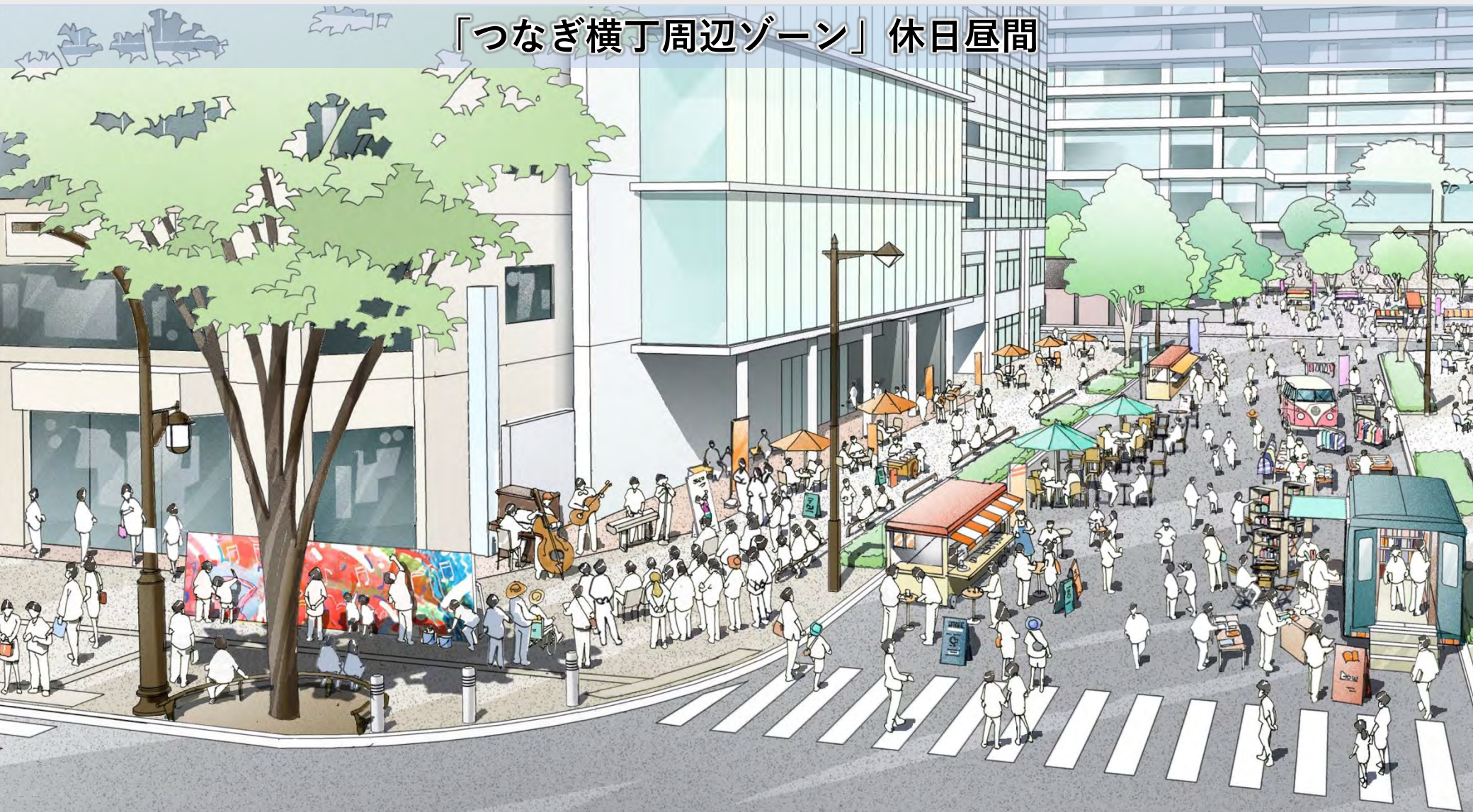
偶然に訪れた人でも
立ち寄りやすい設え

こだわりの料理が楽しめる
屋外レストラン

非日常感を演出する音楽DJや
映像VJによるライブ

2030年までには実現したい空間イメージ④

「つなぎ横丁周辺ゾーン」 休日昼間



「つなぎ横丁周辺ゾーン」 休日昼間

< 解説編 >

- 一番町四丁目商店街～定禅寺通～つなぎ横丁～市民広場～本庁舎低層部が一体的に活用され、連続した賑わいが生まれています
- ミュージック、アート、ファッションなど多彩なカルチャーコンテンツを集めたイベントが定期開催され、学生をはじめ多様な人々の居場所となっています

歩行者天国に合わせた勾当台公園でのイベントの同時開催

歩道を活用した
アート企画の開催

回遊動線を意識した
出店ブース等の配置

民地スペースと道路空間
が一体となった利活用

本庁舎～商店街の賑わいを連続させる
つなぎ横丁の歩行者天国

2030年までには実現したい空間イメージ⑤

日常化を目指す社会実験等の取組み風景（中央緑道）



日常化を目指す社会実験等の取組み風景（沿道）



2030年までには実現したい道路空間の考え方

- 「2030年までには実現したい空間イメージ」を実現化するためには、官民連携による取り組みが不可欠です。
- 仙台市をはじめとした関係行政機関には、ハード（公共空間整備）とソフト（各種制度活用）の両面から、公共空間利活用の日常化に向けた施策展開を期待します。特に道路空間については、定禅寺通活性化検討会での議論や市民参加型シンポジウムでの意見、大規模社会実験の検証結果などをふまえ、「ひと中心の空間づくり」に向けたファーストステップとして、下記のような考え方により定禅寺通を再整備することを強く望みます。

ケヤキ並木

- シンボルであるケヤキ並木を継承し、各ケヤキの生育状況に応じた保全管理を行う。

歩行者空間 (歩道+中央緑道)

- ひと（歩行、滞在、利活用など）の安全性を最優先とする。
- 利活用しやすい空間とインフラ設備（上下水道、電気など）、南北・東西の行き来しやすい環境を整備する。

自転車走行空間

- 自転車交通ルール（歩道での「押しチャリ」マナーなど）の周知、啓発を行うとともに、自転車専用通行帯の設置など自転車が走行しやすい環境を整える。

車道

- 片側1車線削減を基本に、歩道拡幅などの道路空間再配分を行う。
- 沿道の状況に応じて、公共交通やタクシー、物流車両等の必要なスペース・仕組みを整える。

全体的な道路構造

- 段差等による分断が少ないなど、柔軟な利活用が可能となる空間を整備する。

4つのエリアブランディング戦略

目指す街の姿の実現と「ひと中心の空間づくり」を進めるために、
4つのエリアブランディング戦略を掲げ、官民連携によるまちづくりを進めます。

戦略

1

「グランドレベル戦略」
でメインストリートをアップグレード！

定禅寺通の「みち」と「たてもの」の関係（グランドレベル）を『ひと』を中心に再構築します

戦略

2

「イノベーション戦略」
で施設や場所の力をアップグレード！

エリア内の新陳代謝（イノベーション）を高め
投資機会や経済活動を活発化させます

戦略

4

「プロモーション戦略」
でエリアの発信力をアップグレード！

エリアの取組を一体的に発信（プロモーション）し
定禅寺通エリアの価値を磨き広く訴求します

戦略

3

「コンベクション戦略」
で回遊性・界限性をアップグレード！

エリアに対流と滞留（コンベクション）を生み出し
「回遊」を創り出します

戦略に基づくプロジェクトメニュー

※プロジェクトメニューについては、それぞれの主体が具体的内容や時期、ターゲットなどを設定しながら取り組んでいきます。

エリアブランディング
戦略

1

グランド
レベル
戦略

メインストリートを
アップグレード！

定禅寺通の
「みち」と「たてもの」
の関係を
『ひと』を中心に
再構築します

PJ.1 街に開かれた沿道環境づくり

- 街に開かれたオープンな店構えづくりを推進する
- お店の雰囲気や明るさが街にしみ出すように、軒先空間の利活用を促進する
- 沿道空間を一体に捉えた定禅寺通にふさわしい店舗を誘致する仕組みをつくる

PJ.2 ひと中心のみちづくり

- 車線を減らして広がった歩道を活用し、歩きやすく、ゆったり滞在できる空間づくりを進める
- 自転車のルール周知・啓発（走行方法や「押しチャリ」マナー等）を官民連携で定禅寺通から発信し、歩行者の安全性を向上させる

PJ.3 もっと自由で公園のような定禅寺通づくり

- くつろぐ・休む・話すなど多様な滞在行動を誘導するイス・ベンチ等を配置する
- 定期的に歩行者天国等を実施し、市民企画イベントを集めて「歩いて楽しい街」を段階的に実現する
- 歩行者中心の街を推進していくために、長期的な視点で、車道や歩道、緑道のあり方を検討する

PJ.4 新しいチャレンジを生み出す場づくり

- 歩道や緑道などの公共空間及びセットバック部分や公開空地等の沿道空間を最大限活用し、チャレンジショップ・定期イベント等を同時多発的に開催する
- 「楽都」「学都」にふさわしい企画（ストリートミュージックやストリートピアノ、市民向け講座など）を推進する
- 国分町と連携した着地型観光やナイトタイムエコノミーを推進する

PJ.5 おもてなしの心を磨く

- 誰もが気持ちよく過ごせるように、ゴミ出しルールや集積場所の再検討（「世界一美しいゴミ箱」づくりなど）を進める

PJ.6 夜の景観づくり

- ケヤキ並木のある街の豊かさをひきたてるために、並木のライトアップなど、夜の景観づくりを官民連携で推進する

「出逢」が
広がる街

「文化」を
創造し
続ける街

「価値」を
高め合う街

エリアブランディング 戦略

2

イノベーション 戦略

施設や場所の力を
アップグレード！

エリア内の
新陳代謝を高め
投資機会や
経済活動を
活発化させます

PJ.1 民有不動産の徹底活用

- 老朽化した民有建物や低未利用地については、リノベーション・暫定利用・建替え・共同利用など様々な手法を駆使して不動産の徹底活用を推進する

PJ.2 公共施設再編との連携

- 老朽化した公共施設の更新・再編にあわせた官民連携事業を模索する
- 市役所本庁舎の建替えについて、本庁舎低層部と市民広場の一体的利活用への関与を目指す
- 県民会館移転後の跡地については、定禅寺通の「要」と位置づけ、周辺地権者等と一緒に勉強会を重ね、定禅寺通にふさわしい土地利用・機能導入につながるよう検討を実施し、提言等につなげる

PJ.3 事業者間のコラボレーションで事業創発

- エリアの事業者等をマッチングし、定禅寺通ならではの新しい商品やサービスを創発する

PJ.4 クリエイティブ人材が集う場づくり

- 若者・起業家のスタートアップやチャレンジを後押しする取組（ポップアップショップやチャレンジショップ、低廉な価格での場の提供、コワーキング・シェアスペース等、クリエイティブ人材同士をつなぐ機会の創出など）をエリア全体で推進する。

PJ.5 世界に冠たる「環境都市」への取組

- SDGsや脱炭素等の社会動向を先取りして、建物や工作物等の「緑化」や「環境性能向上（LEED、WELLの認証取得推奨）」、「木質化」を推進する
- 民地も含め緑化やグリーンインフラを推進し、緑あふれる街並み「The Greenest City」のモデルエリアとなる
- 環境保全や地域資源の循環等を学び・実践するフィールドとなる

「出逢」が
広がる街

「文化」を
創造し
続ける街

「価値」を
高め合う街

ポップアップショップ：数日～数週間程度の、比較的短い期間限定で開設される店舗のこと

コワーキング・シェアスペース：事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイルのための施設

LEED認証：エネルギーや資源利用など様々な観点から建築や都市の環境性能を評価する国際的な認証システム

WELL認証：人の健康とウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好であること）に影響を与える様々な機能の観点から建築や街区の環境性能を評価する国際的な認証システム

The Greenest City：仙台市基本計画2021-2030におけるまちづくり理念「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～The Greenest City”SENDAI～」

エリアブランディング 戦略

3

コンベクション 戦略

回遊性・界限性を
アップグレード！

エリアに
対流と滞留を
生み出し
「回遊」を
創り出します

PJ. 1 多様な人々、多様な主体の居場所となること

- 子どもから高齢者まで、個人から家族、友達同士、企業やNPO、市民団体まで、幅広く多様な市民・人々が訪れ、活動し、楽しめる環境をつくる

PJ. 2 定禅寺通へのアクセス性向上

- 地域内外をつなぐ交通機能の強化を検討する
- MaaS（Mobility as a Service）を推進する
- 定禅寺通に至る公共交通の分かりやすさを向上する（仙台駅前バス停のPR、地下鉄駅やバス停の名称及びネーミングライツ、仙台都心部からの案内表示の改善・充実等）
- 定禅寺通エリアの事業者サービス等と連携したモビリティ事業の展開を検討する

PJ. 3 勾当台公園・西公園の利活用

- 勾当台公園や西公園など、定禅寺通の東西に位置する大規模な都市公園の魅力を向上させ、定禅寺通エリアへの波及効果を高めるため、民間活力の導入等による日常的な管理運営に積極的に関わる

PJ. 4 小さなアクションをいたるところで展開

- 定禅寺通につながる通りや周辺の街区毎に、コンセプトや愛称などを設定した発信力のある取組を展開する
- 沿道の公開空地やコインパーキング等を活用したイベント・滞在空間化などを同時多発的に進め、訪れるたびにいろいろな楽しみを体験できるまちづくりを推進する

PJ. 5 身近な緑を増やし、季節を楽しめる街へ

- 裏通りや建物の軒先などでも「小さな緑化」「花飾り」を進め、ケヤキ並木を中心に街のあちこちで四季を楽しめる環境づくりを推進する

PJ. 6 先導的かつ環境にやさしい移動手段の導入

- グリーンスローモビリティなど、人と環境にやさしい公共交通の導入を検討する
- AIや自動運転を活用したオンデマンド交通、キックボードやパーソナルモビリティなど、多様な人々の「快適な近距離移動」を可能にする移動手段の導入を検討する

「出逢」が
広がる街

「文化」を
創造し
続ける街

「価値」を
高め合う街

エリアブランディング 戦略

4

プロモーション 戦略

エリアの発信力を
アップグレード！

エリアの取組を
一体的に発信し
エリアの価値を磨き
広く訴求します

PJ. 1 「定禅寺通エリアの今」を伝える

- HPやSNSを活用したエリア全体の情報プラットフォームをつくる
- 訪れた方が知り合い等に「伝えたい！教えたい！」と強く思うイベントやコンテンツをつくる

「出逢」が
広がる街

PJ. 2 ビジュアルアイデンティティの確立

- エリア全体の統一的なブランディングを進めるために、ロゴやステートメントなどのビジュアルアイデンティティを定めて展開する

「文化」を
創造し
続ける街

PJ. 3 コミュニケーションツールとしての情報発信

- 定禅寺通エリアの魅力的な人や店舗を発信する情報誌等を発行する

PJ. 4 杜の都を象徴するケヤキ並木を活かしたブランディングの推進

- ケヤキ並木を活かしたブランディングにより、都市と緑が豊かに共存する「エコロジー」・「サステナブル」なエリアとしてのイメージを訴求する

PJ. 5 エリアマネジメント広告の実施

- 歩道上や民間の屋外広告物などを活用して、エリアのまちづくりの方針に沿ったエリアマネジメント広告を販売し、まちづくりの資金とする

「価値」を
高め合う街

PJ. 6 「定禅寺通エリアファン」の獲得

- 何よりも、この「定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030」とその間断のないアップグレードへの取組を通じて、私たちの想いを一人でも多くの市民に伝え、定禅寺通エリアのファン（応援者）を増やす

ビジュアルアイデンティティ：ロゴや色、フォントなどの、視覚的に表現した一貫性のあるデザインによって、ブランドの価値やコンセプトを象徴するデザイン要素

エコロジー：環境保全や地球環境に負荷をかけないといった、自然との調和・共存を目指す考え方

サステナブル：「持続可能な」という意味。主に自然にある資源を長い時間維持し、環境に負荷をかけないようにしながら利用していくこと

エリアマネジメント：地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み

エリアマネジメント 持続的なまちづくりの取組体制について

【エリアマネジメント推進体制の必要性】

このビジョンの実現のためには、

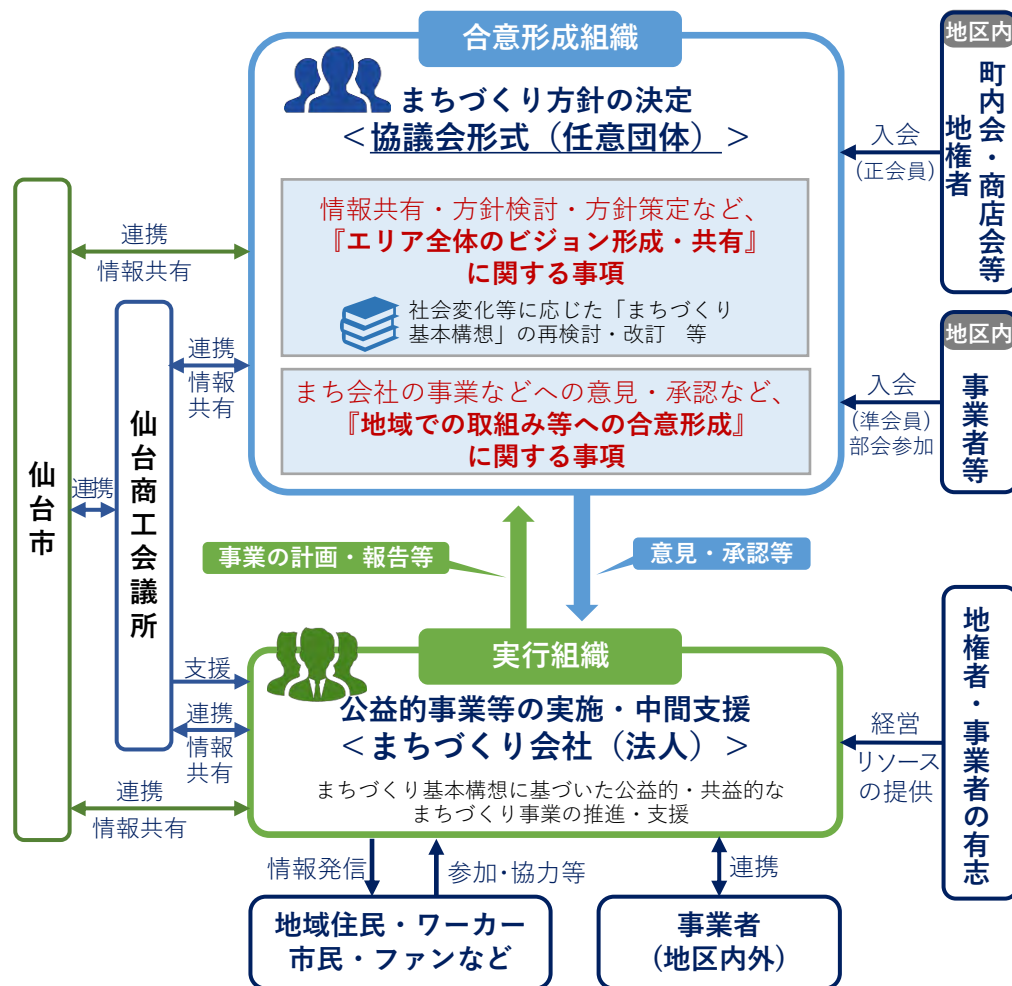
- エリア全体のまちづくりの方針（本ビジョンやエリアでの取組みなど）について、地域の関係者が意見を出し合いながら合意形成を行い、共有する体制が必要【合意形成組織】
- まちづくりの方針に基づき、長期的な視点を持ちつつ、社会や環境の変化にも対応しながら持続的かつ柔軟・迅速に取り組んでいく体制が必要【実行組織】

まちづくりの方針を決定・評価する「合意形成組織」とまちづくりの方針に基づいた事業を実施する「実行組織（まちづくり会社）」が両輪で進める体制が有効

【まちづくり会社の役割】

- 個別の事業者等では担うことが難しい公益的・共益的なまちづくり事業を主体的に実施すること【まちづくり実行機能】
 - 地域の合意形成や行政との調整・連携が必要である公共空間・公共施設を活用したまちづくり事業の実施
 - エリア全体のブランディングにつながる情報発信や地域課題解決の取り組み（防災・環境分野）など
- 多様な主体のまちづくりへの参画によるエリア活力の向上に向け、そのまちづくり活動を促進するために必要な中間支援を行うこと【中間支援機能】

エリアマネジメント推進体制（イメージ）



私たちが目指す街の姿を実現するため、3つの行動方針でまちづくりを進めます。

① <主体・体制> 合意形成組織・実行組織を中心に、沿道事業者や市内外事業者も参画できる枠組み

まちづくりを円滑に進めていくためには、多様な主体とのチームづくりが重要です。自分たちが主体となり、オール仙台で取り組むという意識を持ち、みんなでエリアのための事業に取り組んでいきます。

② <制度・計画> 多様な制度や計画等を活用し官民連携を加速

エリア価値を高めるための取組を共に進めていくため、多様な制度の活用や市による行政計画への位置付けなど、官民で連携を図りながら事業に取り組んでいきます。

③ <事業・取組> 受益と負担の関係を再構築しながら、4つのエリアブランディング戦略に基づいた事業にチャレンジ

継続性ある取組に育てていくためには、地域資源を徹底的に活用し、街の価値向上を図り、地域経済循環を促す仕組みが重要となります。受益と負担を明確にした上で、効用を最大化させる事業にチャレンジしていきます。



※定禅寺通エリアにおける**街の変化のタイミング**をとらえながら、**戦略的にまちづくり**を進めます

定禅寺通エリア
まちづくりビジョン

2030

定禅寺通エリアまちづくり基本構想

2022.03

定禅寺通活性化検討会